

主のご降誕おめでとうございます！

飼い葉桶に眠る幼子イエス、それを愛おしく見守るマリアとヨセフ。「聖家族」のお姿は、私たちに平安を与えてくださいます。今年行われた「シグニス東アジア会議」のテーマは、「家族と希望の物語」でした。参加国の家族のあり方が報告され、映画「さとにきたらええやん」、「まりあ食堂」、「Kiitos-青少年の居場所」など、血縁を越えた「家族」を分かち合いました。これから迎える新しい年にもたくさんの「聖家族」が生まれることを願いたいと思います。



シグニス東アジア会議が紡いだ希望の物語

この11月11～12日にYMCA アジア青少年センターにてシグニス東アジア会議が開催され、マカオ、香港、韓国、台湾、そしてインドから12名の方々を迎え、日本からの参加者を含めて50名余の集まりとなった。

テーマは『家族と希望の物語』。家族、子ども、若者、高齢者についての希望の物語を持ち寄って紹介することを各国のシグニスにお願いした。

歓迎の挨拶のあと、基調講演は晴佐久神父による「福音家族」の紹介、そして各国からの報告があった。香港、台湾、マカオの報告は結婚講座やマリッジエンカウンター、離婚を防ぐための活動の紹介だった。韓国からは聴覚障がいをもった父親と家族の物語のラジオ番組が紹介された。日本は少子高齢化、こどもの貧困、若者の自殺の問題に直面している活動を紹介した。

午後は、カリタスジャパンと共催で、映画「さとにきたらええやん」の上映と分かち合い、そして「こどもの里」理事長の荘保共子さんのトークがあった。この映画は今年のカトリック映画賞の候補作であり、釜ヶ崎で生きる子どもたちの生き生きとした姿がとても印象的なドキュメンタリーである。その後神田教会でミサをおこない、懇親会は会場近くの居酒屋で五島の料理を堪能した。

2日目は朝9時からラウンドテーブル。日本の「希望の物語」として片瀬教会「まりあ食堂」と、若者の居場所づくりに取り組んでいる「Kiitos-青少年の居場所」の活動紹介。このいずれも信徒による地域の中での自主的でサステナブルな活動であった。その後3つのグループに分かれて話し合い、あるグループでは「教会、地域、福祉」が話題となった。

幸田司教の福島からのメッセージ、また晴佐久神父の「福音家族」、そして「こども食堂」や「若者の居場所づくり」の活動など、今の日本の家族をめぐる『希望の物語』の紹介は参加者にとっても新鮮な印象を与えられたのではないかと考えている。 (会長 土屋至)

<参加者からの感想>

まりあ食堂

「皆さんはもう家族なんですよ！」第5回シグニス東アジア会議に参加して以来響いている晴佐久神父様の言葉！世界中で信者数では弱者とも言えるアジアの国が色々な形で神の愛を伝えている話を聞き乍ら、何故教会に希望を見出せない人が増えているのか… ずっと考えています。ほっとけない性分のお節介バサン達が暗中模索で来た「まりあ食堂」は、あの後20回を迎えました。100人近い子どもが『カトリックで会おうぜ！』と集まります。この大家族大切にしていこう！教会も世の中も捨てたもんじゃあないよ！今回、素晴らしい出逢いと貴重な体験をありがとうございました。感謝のうちに。 (片瀬教会 相澤純子さん)

AMORから

東アジア会議に撮影係として参加しました。各国の報告から、決して報道されない具体的な状況がよくわかり、それぞれが「知る」ということの大切さを再認識したことと思います。各国 SIGNIS はそれぞれ個性的な活動をしており、現代社会、家庭の問題、多様な家族の形とどう向き合うのか、考えることができました。教会には諸団体ありますが、Dr. マジマイが言うように、このような情報を発信することこそメディア協議会である SIGNIS の使命だと思います。映画は多くの人に届きますし、インターネットはもはや生活の一部です。私たち AMOR もウェブマガジンというメディアを生かし、福音を発信していきます。 (高原夏希/SNN-AMOR)

ツアーについて

総勢23名で、まずは「江戸の大殉教」を知っていたためにカトリック高輪教会へ。英語の説明もあり、皆さま熱心に聞いていらっしゃいました。その後、「いけばな×百段階段」開催中の目黒雅叙園へ。秋を彩る花、実ものを使った伝統的のものからダイナミックなものまで、写真撮影も可能でしたので、日本の伝統文化を存分に味わっていただきました。締めくくりは、元気な町、渋谷をご案内。まずは、上からスクランブル交差点を見学。降りて、八公を触って、世界一の交差点を実際に渡る。そして、センター街を歩きメガドンキーへ。かなり人が多く歩きにくいところですが、若者文化もたっぷり味わってツアー終了しました。 (シグニスジャパン 増田眞澄)

<東アジアメンバーからのメッセージ>

Dr. Magimai Pragasam (シグニスアジア副会長・インド)

私はこの会議をとっても楽しめた。内容がととても豊かで、情報量も多く、良い刺激を受け、勉強になった。土屋会長の挨拶、顧問司祭のお話、Mr. Kimの心に触れる話、マカオのフィロメナさんや香港のキャサリンさんの発表も良かった。映画と荘保さんの話には深く考えさせられた。白旗さんと相澤さんの話にも深い反省に導かれた。本当に素晴らしい経験だった。日本のチームに神様の祝福がたくさんあります様に！

Mr. Francis Kim (シグニスアジア会計・韓国)

シグニスジャパンの綿密な準備と実行に感謝します。この会議がシグニス東アジアのメンバーを刺激し、シグニスジャパンが他の国々に奉仕する意味ある機会となることを期待します。

Ms. Loura Foo (香港司教区 広報センター)

シグニスジャパンによる会議の開催と歓待に感謝します。海外からと日本の参加者が一緒になって同じテーマの下で経験や状況を分かち合い、お互いを知り合う良い機会に、皆喜んでいました。発表の事前トライアルをし、もう少し余裕を持ったスケジュールだととても良かったです。でも会議は成功でした。

Ms. Jasmin Yiu (マカオ O Clarim Weekly 副編集長)

素晴らしい経験でした。シグニスジャパンに感謝！シグニスには初参加でしたが、とても温かく迎えていただきました。高い期待を持って参加しました。この2日間は日本社会の課題を含め、私の視野を広げてくれました。しかし各地域の持つ課題をどう福音宣教に結びつけるか、もっと深く議論したかったです。

Fr. Kuei-Hsiung Huang (台湾 神言会・家族奉仕会)

この会議はお互いから学ぶ素晴らしい経験でした。学んだことを実行し、人々に福音を伝える為にメディアをよりよく使っていきます。



シグニス東アジア会議 2017.11.12

映画で振り返る2017年 カトリック映画賞上映会に向けて

「映画は、人種や言語、宗教を越えて、多様な人々を共感によって結ぶ、真に普遍的なメディアです」これはシグニス顧問、晴佐久昌英神父のことばです。私たちシグニスのメンバーはこのことばのもとに毎年日本カトリック映画賞を選び授賞式と上映会を行ってきました。来年は42回目を迎えます。それに向けて現在、映画賞授賞作品の選考中です。映画によって愛と平和の文明を作り出すことができると信じるメンバーたちが、それぞれ出会った映画の中からカトリック映画賞にふさわしいと思う映画を推薦し、その中から一本に絞り込んでいきます。以下は、メンバーから挙げられた映画のタイトルです。(順不同)『人生フルーツ』『ハローグッバイ』『夜間もやってくる保育園』『幼子われらに生まれ』『かれらが本気で編むときは、』『パーフェクト・レボリューション』『もうろうをいきる』『ブランカとギター弾き』『やさしくなあと - 奈緒ちゃんと家族の35年-』ドキュメンタリーも劇映画もあります。

映画は時代を映す「鏡」。高齢社会をどう生きるかを描いた作品、LGBT や、障がいについて考えさせてくれる作品、家族とは？友達とは？と問いかけてくる作品など、どの作品も今の社会に生きる私たちに大切なメッセージを送ってくれます。普段、私たちは生活の制約もあり、観る映画は限られ自分の「好み」で観ることになりがちです。ところが映画賞の選考に関わっていると、「候補作品だから観ておかななくては」という理由で「好み」以外の数多くの映画を観ることになります。自分の「好み」で選んでいる限り、観ることがなかったような素晴らしい作品に出会うことが度々あります。今まで知らなかったことを知り、新しい気づきを得るのは大きな喜びです。



さて今回の授賞作は何になるのでしょうか？

2018年5月12日(土)、授賞式と上映会をどうぞお楽しみに！(映画チーム 鈴木浩)

写真：推薦された映画の数々

賛助会員募集

と一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

わたしたちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。

年会費 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org

会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋 至